

JR 広島病院

臨床実習 II（従来型および診療参加型共通）研修プログラム

病理診断科

【当院の病理診断科研修の特性】

当院の各診療科の特性を反映し、消化器（特に胃および大腸）の生検、内視鏡的切除、消化器外科材料、および甲状腺手術材料が多い。また、泌尿器科症例が豊富で、特に尿路上皮癌症例が多く、膀胱腫瘍の一括切除術 TURBO (transurethral one piece resection of bladder tumor、元副院長の鶴飼麟三医師により開発されたいわゆる“ターボ”(参考文献 Ukai R, et al. J Urol 2000;163:878-879))による内視鏡切除材料を鏡検する機会は当院が県内唯一である。当院では、病理診断科において、全手術材料を、手術室で切除された直後から管理している。他、婦人科腫瘍手術、難治性の皮膚炎症性疾患の生検、整形外科からの脊髄脊椎疾患の手術、気管支鏡下生検、そして心筋生検にてえられた材料を評価・診断する機会があることも特徴である。当科は、平成 20 年度より日本病理学会の認定施設（病理解剖症例の関係で、平成 24 年度より登録施設）であり、新専門医制度では、広島大学病院病理専門医プログラムの連携施設となる。平成 21 年度より、日本臨床細胞学会の細胞診専門医教育研修施設に認定されている。

【一般目標 General Instructive Objectives (GIO)】

- 1) 医療者の一員として病理診断に従事することを通じて、病理医としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、みずからの実践の中で学ぶ。
- 2) 基本的な観察法およびコミュニケーション技能を身につけ、他科医師、臨床検査技師、看護師、および看護助手と良好な対人関係を築いて病理診断を進めることができるようになることを目指す。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義で得られなかった、より実践的な知識を身につける。
- 4) 担当する患者の検体の診断およびコメントに、今まで学んできた生命科学の知識を応用できる、すなわち機能的な形態診断学の実践を目指す。
- 5) 病理診断業務の中から生じる疑問点を解明しようとするリサーチマインドを身につける。

【到達目標（行動目標） Specific Behavioral Objectives (SBOs)】

- 1) 病理診断依頼書に記載された臨床情報および要望を理解し、説明することができる。

- 2) 病理組織診断用検体の適切な提出法と固定法を説明できる。
- 3) 検体採取から病理診断までの一連の作業を説明できる。
- 4) 手術材料の切り出し（組織学的観察を行う部分の採取）を指導医とともに施行できる。
- 5) 国際標準的な教科書を参照しながら、典型的な腫瘍症例の最終診断を下せる。
- 6) 既診断症例の臨床像、肉眼および組織所見について自ら深く学び、解説することができる。
- 7) 術中迅速診断における臓器提出から診断報告までの過程を述べることができる。
- 8) 細胞診の役割、検体提出の方法、および診断作法を説明できる。
- 9) 免疫組織化学、電子顕微鏡、コンパニオン診断（遺伝子診断）の役割を説明できる。
- 10) 臨床検査技師および細胞検査士との協働の重要性を理解できる。

【実習方略 Learning Strategies (LS)】

1) オリエンテーション

- 第1週の月曜日の午前中にオリエンテーションを行い、ポートフォリオを配布する
- 実習期間中に調べたことや検索した文献等すべて綴じ込むこと
- 実習中は指導医の指示に従い、検体提出から診断確定までの過程に参加すること

2) 報告書記載の実践

- 肉眼臓器、組織所見、および診断等を、学生用の紙報告書に記載する
- 追加でおこなうべき免疫組織化学、電子顕微鏡、およびコンパニオン診断の項目を指摘する
- 自身が作成した報告書と指導医とともに作成する最終病理診断報告書と比較する
- ベテランの細胞検査士と指導医でおこなう細胞診サインアウトに参加し、細胞診報告書の作成および返却過程を学ぶ

3) プレゼンテーション学習

- 院内カンサーボード等カンファレンスで病理診断に関する内容を分担し、発表する
- 午前中の抄読会では、論文の背景にまで踏み込んだプレゼンを行う

4) ポートフォリオ

- 毎日記載し、毎日帰宅時あるいは翌朝に指導医のコメント・署名をもらうこと

5) 週間スケジュール：月曜から金曜まで、原則として、以下の通り

午前 8 時 30 分から 20 分間：細胞診サインアウト（細胞検査士、指導医、初期研修医、学生）

午前 9 時から約 30 分間：NEJM や国際的な外科病理学の雑誌の総説や原著論文の抄読会

午前 9 時 30 分から正午：切り出し、病理組織診サインアウト（指導医、初期研修医、学生）

午後 1 時以降：指導医の下で、時に初期研修医の助言も得ながら、組織標本の鏡検および診断等

注 1) 実習期間中、病理解剖の依頼があれば、随時、見学あるいは介助に参加する。

注 2) 術中迅速診断は随時、見学する。

注3) 院内開催される病院全体あるいは臓器別のカンファレンスへの参加が望まれる。

病院全体あるいは臓器別のカンファレンスには、以下が該当する

- ・ 院内剖検症例検討会 (年4回程度、曜日不定)
- ・ 院内 DEATH CONFERENCE (原則毎月最終月曜日午後4時30分より)
- ・ 院内カンサーボード (毎週火曜日午後5時以降、消化器カンファレンス後)
- ・ 消化器カンファレンス (毎週火曜日午後5時より)
- ・ 甲状腺カンファレンス (第4週火曜日午後4時より)

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートをつけ、靴を履くこと(サンダルは禁止)。
- 2) 医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報管理に留意すること。
- 4) やむを得ず欠席あるいは遅刻する場合は必ず届け出ること。
- 5) 臓器を扱う際は常にゴム手袋を着用すること。
- 6) 教科書および病理組織アトラス等教育媒体および筆記具を持参すること。
- 7) 研修中にけがをした場合はすぐ申し出ること

【評価 Evaluation】

10項目の到達目標(SBOs)が実習中にどの程度まで達成されたかを評価する

- (1) 指導者(指導医および臨床検査技師(細胞検査士))による医療者としての行動(20点)
- (2) 紙報告書の内容の評価(20点)
- (3) ポートフォリオの内容の評価(20点)
- (4) 病理診断領域に関する知識・理解度(20点)
- (5) 病理診断科内での態度全般(20点)

以上の5項目について採点して総合評価(100点満点)を行う。

【実習指導医】

中山 宏文 教育研修部長/診療部臨床検査科部長 内線 2307 PHS:9043

広島大学医学部医学科 平成元年卒

広島大学医学部臨床教授、博士(医学)

厚生労働省死体解剖資格

日本病理学会病理専門医・病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門医・教育研修指導医・教育研修責任者

日本臨床検査医学会臨床検査管理医

厚生労働省医政局長臨床研修指導医

厚生労働省医師臨床研修プログラム責任者

専門領域：病理診断、腫瘍診断（特に消化管、皮膚、表在性軟部組織）、脂肪肝

【参考図書、文献】

以下に代表的なもののみ示します。実習中に他の成書や論文を紹介させていただきます。

- 1) Rosai and Ackerman's Surgical Pathology, 10th Edition, Mosby, 2011.
- 2) UICC TNM Classification of Malignant Tumours, Seventh Edition, Willey-Blackwell, 2009.
- 3) 外科病理学、第4版、文光堂、2006.
- 4) 日本国内の学会編集の全身諸臓器（胃、大腸、肝、肺、乳腺、子宮等）の癌の取り扱い規約
- 5) 海外の外科病理学および一般総合医学の欧文雑誌：Modern Pathology, American Journal of Surgical Pathology, American Journal of Clinical Pathology, Human Pathology, Histopathology, NEJM, Lancet 等